

〔曲名〕 Rawvedimento e Perdono

過ちとお詫び

〔曲種〕

〔作曲者〕 Ferdinando Francia

フェルディナンド フランチャ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

作曲者フアランチャは、19世紀中葉、イタリア北部ピエモンテのオマーニヤに生まれ、1904年6月13日ジェノバに逝いた著名なマンドリニストで作曲家、

ボーンの著書によれば風采堂々たる音楽家とあるが、彼の活躍がス楽の揺籃期（ようらん）にあるので、文献に乏しく詳細が判明しない。

然し、その作品は各所で夥（おびただ）しく出版され、その名は欧州に遍（あまね）く知れ渡っていたにもかかわらず、

現在では、その肖像すら見出すことが出来ない。

判明しているマンドリン曲は編曲を除いて50余曲あるが作品番号（Op. ）は427まであり、その出版社（者）はミラノのリコルディを始め、

トリーノのブランキ、キアッピーノ、フィレンツェのマウリ、フォルリヴェージ、レバグリ、ヴェンテューリーニの他

未知のものがどれだけあるか判らない状況である。

トリーノの「イルマンドリーノ」主筆・モンティコーネは、彼の死の年（1904）の6月号に悲嘆やる方ない弔辞を掲げている。

「世界の凡ゆるマンドリン愛好者のマンドリンに寄せる愛情、熱情をかき立てた彼、多くの合奏団の灯となって導いた彼は、今やいない。

フランチャ我が友よ、汝との別れは我々の芸術を深い混迷に陥れた。

このマエストロ・作者を失ったことは、我々にとって最大の悲痛である。

ジェノヴァは、この偉大なる汝に最大の尊敬を払わねばならない。

ティレニアの海に吹く風、打ち寄せる浪は汝の偉大な魂をより高き彼方に運ぶことであろう。」

本邦では初期（大正）の頃、「月の世界にて」「父の愛」「ローマの印象」等が上演されたことがあるが、以後絶えてしまったので、

その名を知る人も少ないのではなからうか。

マンドリンやギターの教則本の他に珍しいマンドラの教則本も書いている。

扱（さて）、本曲はその作品番号から推定すれば、若き日の作品で、二人の愛弟子・カルロツティーナとマリア・テデスキに贈られており、

曲名が通常あり勝ちな叙景でなく、心理的なのは甚だ珍しい。

「過ちとお詫び」「過失と容赦」どうも曲名として、適当な訳名は見出せないが、作者と愛弟子との間の関連に基づくものかどうかは、

奏者の憶測に任せるしかない。

原曲はピアノ又はギター伴奏によるマンドリン独奏曲に書かれている。

1993年 4月 発行

マンドリン合奏曲集 4集（JMU版 パート譜付）より